

平成20年度
(平成20年7月～21年6月)

環境活動レポート

平成21年9月

株式会社 千 草

環 境 方 針

株式会社 千草は、「ホテル事業とその関連事業を通じて、人と自然にやさしい会社を、たくましく発展させることによって、より豊かな地域社会の実現に貢献する」を経営理念に掲げ、全従業員が事業活動のあらゆる面で、地球環境に影響を与えていることを自覚して、世界の環境改善に貢献します。

- 1 . 環境経営システムを構築し、次の事項を重点的なテーマとして、環境目標を設定・見直しなどの効果的な取組を行います。
 - (1) 使用エネルギー（電気、重油、L P G , 都市ガス等）の節約。
 - (2) 廃棄物排出量の削減と食品廃棄物の削減と再生利用
 - (3) 節水
- 2 . 環境関連法令と当社が参加した協定等を順守することはもとより、自主管理基準を設けて環境管理レベルの向上を図ります。
- 3 . 行政機関・団体などの環境保全施策に協力すると共に、地域社会における環境保全活動に対し積極的に参画し、社会貢献活動を推進します。
- 4 . 環境教育・訓練、社内広報活動の実施により、全ての従業員に環境方針を周知徹底すると共に、環境保全に関する意識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。

平成19年11月 1日
株式会社 千 草

代表取締役社長 小 嶋 一 碩

Corporate Profile 2009

社名 (Name) 株式会社 千草 Chigusa Co.Ltd

住所 (Address)

〒805-0061 福岡県北九州市八幡東区西本町1-1-1

TEL (093)-671-1131 FAX (093)-661-3155

URL www.chigusa.co.jp E-mail hotel@chigusa.co.jp

設立 (Founded) 1941年1月

資本金 (Capital) 5,000万円

売上高 (Sales) 23.7億円 (2009年6月30日現在)

社員数 (Employees) 135名 (2009年6月30日現在)

事業内容 (Business Summary)

ホテル 結婚式場 レストラン

Management of hotel, wedding halls, and restaurants

Corporate History

- 1941/01 千草旅館創業
Foundation of Japanese style inn Chigusa
- 1946 現在地に移転
Moved to current location
- 1973/01 株式会社千草ホテル設立
Foundation of Chigusa Hotel Co.ltd
- 1985/08 千草商事株式会社設立
Foundation of Chigusa Trading Co.ltd
- 2000/03 株式会社千草設立
Affiliation of Chigusa Hotel &Chigusa Trading



Since 1941

「千草」という社名には雑草のような、たくましい生命の力が込められています。
株式会社千草は、やさしさのうちに時代を超えて生き抜く力強さを培っていきます。

Corporate Philosophy

私たちは、ホテル事業とその関連事業の展開によって
お客様に心からご満足をいただけることを願っています。

そのためにはまずは、社員一人一人が
明るく健康で生き生きとしていなければなりません。

社員こそまさに千草の生命力です。

そこで

私たち千草は「社員第一主義」を経営理念の基本とし
人と自然にやさしい会社をたくましく発展させることによって
より豊かな地域社会の実現に貢献していきます。

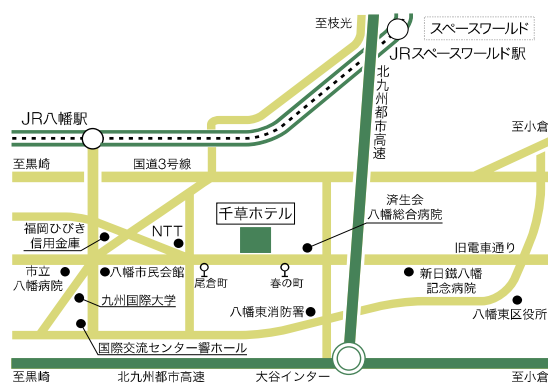


千草ホテルは、1914年創業の料亭「千草」を母体とした北九州の老舗ホテルです。料亭時代からの食の伝統と、現代アート。両方が楽しめる個性的なホテルとして現在にいたるまで、多くの著名人や作家、美術関係者の方々にご利用いただいております。

本館は1980年代の代表的な建築様式であるポストモダンを彷彿とさせる造りで、豊川建築設計により1985年に北九州市建築文化賞を受賞しています。館内は大塚孝博のデザインによって、ラグジュアリー感のあるモダンな空間になっています。ロビーやレストランなどに国内外の現代アート作品が並び、和室は、料亭時代からの受け継いだ数寄屋造りに現代アートを組み合わせた特徴的な和モダンスタイルです。

お食事は懐石料理、割烹、フレンチレストランなど四季折々の新鮮な素材を使い、季節ごとに味わっていただける食事処が多彩に揃います。近隣には、スペースワールド、北九州市美術館、響ホール、いのちのたび博物館など多くの施設があり、観光・ビジネスに最適です。

Access

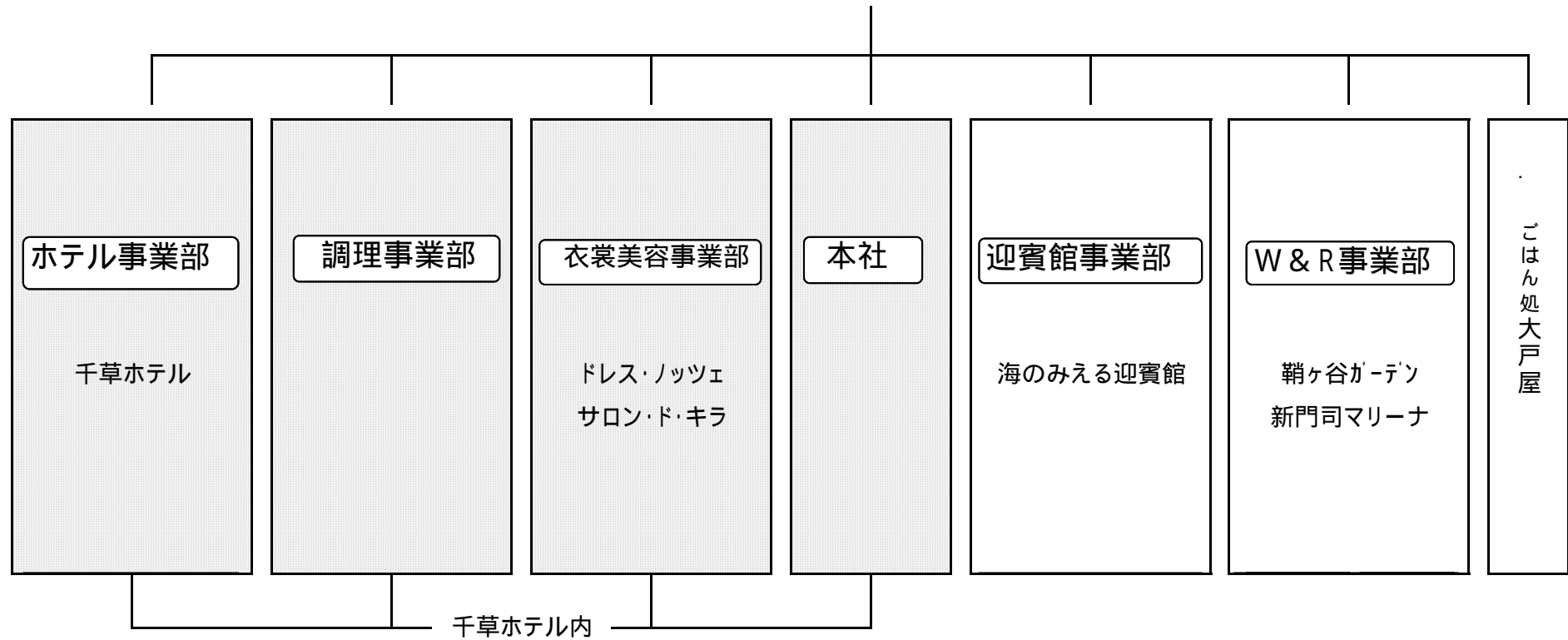


交通 電車 / JR鹿児島本線八幡駅下車、徒歩10分
車 / 九州自動車道八幡ICより北九州都市高速へ入り
大谷IC 出口を出て直進し、信号3つ目を左折

駐車場 乗用車の駐車場(屋内および屋外) 収容台数:100台 無料

組 織 図

株 式 会 社 千 草



* [Shaded box] がエコアクション21の対象部門です。

1 組織の概要

- 1.事業所名 株式会社 千草
 代表者氏名 代表取締役 小嶋 一碩
- 2.対象事業所 千草ホテル
- 3.所在地 〒805-0061 福岡県北九州市八幡東区西本町1丁目1-1
- 4.環境管理責任者 経営管理部長 青木 正明
 担当者氏名 経営管理部長 青木 正明
 連絡先 TEL 093-671-1131
 FAX 093-661-3155
 Eメールアドレス aoki@chigusa.co.jp
- 5.事業の内容 ホテル業
- 6.事業年度 7月～翌6月

7.事業の規模
千草ホテル

	単位	平成18年度 18年7月～ 19年6月	平成19年度 19年7月～ 20年6月	平成20年度 20年7月～ 21年6月
売上高	百万円	807	882	875
従業員数	人	114	114	113
床面積	m ²	8,175	8,175	8,175

- 8.事業の沿革
- 昭和16年1月 千草旅館 創業
- 昭和48年1月 株式会社 千草ホテル 設立
- 昭和60年8月 千草商事株式会社 設立
- 平成12年3月 株式会社千草ホテル・千草商事株式会社 合併
 株式会社 千草へ社名を変更

3. 環境目標と実績

3.1. 環境への負荷の現状

過去3年間の総エネルギー投入量、二酸化炭素排出量、総廃棄物排出量、総排水量は以下のとおりである。エコアクション21は、平成19年度半ば(平成19年11月)より取り組んできたが、平成20年度は、4項目とも19年度より総量を削減することが出来た。

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
購入電力	13,202,437	13,864,782	13,858,767
重油	2,351,865	2,140,725	1,239,470
都市ガス	1,320,338	1,583,172	2,569,695
LPG	1,189,589	1,045,867	5,422
ガソリン	247,840	170,094	154,593
軽油	338,146	366,376	313,622
計	18,650,215	19,171,016	18,141,569

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
二酸化炭素排出量	849,407	861,849	782,885

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
総廃棄物排出量	-	71,582	56,968

	平成18年度	平成19年度	平成20年度
総排水量	25,845	26,043	26,004

3.2. 目標の達成状況

過去3年間の環境目標値と実績は以下のとおりである。

平成20年度(20年7月～21年6月)は、すべての項目で環境目標値を達成した。

なお、食品廃棄物の削減に関しては、全社の取組として、千草ホテルとすべての関連事業所において、削減に努めている。

環境目標	目標 実績	単 位	平成18年度	平成19年度	平成20年度
二酸化炭素排出量 の削減	目標	売上高当たり Kg-CO / 百万円	-	1,042以下	1,031以下
	実績	売上高当たり Kg-CO / 百万円	1,053	977	878
総廃棄物排出量 の削減	目標	売上高当たり トン / 百万円	-	-	0.078以下
	実績	売上高当たり トン / 百万円	-	0.081	0.064
食品廃棄物 再生利用等実施率	目標	%	-	22%以上	24%以上
	実績	%	-	33.9%	38.5%
総排水量の削減	目標	売上高当たり m ³ / 百万円	-	31.7以下	31.3以下
	実績	売上高当たり トン / 百万円	32.0	29.5	29.2
グリーン購入の推進	目標	エコ商品品目総数	-	2以上	4以上
	実績	エコ商品品目総数	1	2	4

注 環境目標値は平成18年度の実績を基準として設定した。ただし、総廃棄物排出量の目標値は、平成18年度がデータ不足の為、平成19年度の実績を基準とした。

3.3. 今年度以降の環境目標

今年度以降の環境目標値と削減率(%)を以下に示す。

環境目標	単 位	平成20年度 (20年7月～ 21年6月)	平成21年度 (21年7月～ 22年6月)	平成22年度 (22年7月～ 23年6月)
二酸化炭素排出量 の削減	売上高当たり Kg-CO / 百万円	1,031以下 2%	1,021以下 3%	1,010以下 4%
総廃棄物排出量 の削減	売上高当たり トン / 百万円	0.078以下 4%	0.076以下 6%	0.075以下 8%
全社の食品廃棄物 再生利用等実施率	%	24%	26%	28%
総排水量の削減	売上高当たり m ³ / 百万円	31.3以下 2%	31.0以下 3%	30.7以下 4%
グリーン購入の推進	エコ商品品目総数	4以上	6以上	8以上

注 %は、平成18年度実績をベースとして削減率を示す。

ただし、総廃棄物排出量に関しては、平成19年度の実績を基準値とする。

4. 主な環境活動計画

4.1. 二酸化炭素排出量削減のための取り組み目標と取り組み方法

(1) 電気使用量の削減(2%)

エアコンの設定温度を決め、実行する。	宴会場は冬24度・夏25度	(担当 占部)
ウォームビズ・クールビズの導入。	事務所は冬20度・夏28度	(担当 占部)
部屋退出時の空調・照明OFFの徹底		(担当 山縣・占部)
空調機器、厨房機器の毎月のフィルター掃除		(担当 山縣・占部)
宿泊部屋のお湯ポットのコンセントを外す。		(担当 占部)
トイレの便座の温度設定と夏季のOFF		(担当 占部)
空調室外機の散水装置の検討		(担当 青木)
ホテルロビーの空調設備の更新検討		(担当 青木)

(2) ガソリンおよび軽油使用量の削減(2%)

マイクロバスの待機時のエンジンストップを実施する。	(担当 杉本)
エコ運転・アイドリング禁止を実施する。	(担当 杉本)

4.2. 総廃棄物排出量削減のための取組

(1) 一般ゴミの削減

ペットボトル、ビン、カン、段ボール、古紙の分別の徹底	(担当 青野)
カンのリサイクル(NPO法人「空き缶基金」への協力)	(担当 青野)
古紙(雑誌、新聞、印刷物)のリサイクル	(担当 青野)
使用済割り箸の紙へのリサイクル	(担当 杉本)
割り箸を樹脂製の箸に変更	(担当 青野)

4.3. 食品廃棄物の再生利用等実施率の取組 (全社)

(1) 食品廃棄物の再生利用等実施率(24%)

調理方法の改善と食材の有効利用による調理くずの削減	(担当 山縣)
食材の計画仕入れと在庫の抑制	(担当 青野)
宴会ごとの食べ残し調査	(担当 杉本)
生ごみと一般ごみの分別	(担当 杉本)
水切りペール導入による生ごみの水切りの徹底	(担当 山縣)
食廃油の燃料へのリサイクル	(担当 山縣)

4.4. 総排水量削減のための取組

食材のさらし方、解凍方法の徹底	(担当 山縣)
グリーストラップの毎日の清掃	(担当 山縣)
洗面所の自動止水栓導入の検討	(担当 青木)

4.5. グリーン購入の推進

エコ商品の調査

(担当 青野)

エコ商品への切り替え (トイレペーパー・文具・エアコン・冷蔵庫)

(担当 青野)

4.6. 環境教育・訓練

環境教育・訓練の担当者・組織の明確化

(担当 青木)

環境意識の向上、環境教育の計画策定

(担当 波多野)

5 . 環境活動の取組結果の評価

5 . 1 . 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の削減に関しては、目標を大幅に削減できた。特に使用エネルギーの75%を占める電気使用量の削減に関しては、設定温度の遵守および空調・照明のこまめなスイッチのON・OFFが効果を挙げたと思われる。また、事務所等のバックヤードの空調に関しては、ウオームビズ、クールビズを取り入れ、設定温度を変更(冬は下げ、夏は上げ)した。

5 . 2 . 総廃棄物排出量の削減

総廃棄物排出量の削減に関しては、従業員のゴミに対する意識の向上、分別の徹底等により、目標を大幅に削減できた。

取引先各社に対しては、納入時の段ボール箱、発砲スチロール箱の回収を引き続きお願いしている。

5 . 3 . 全社の食品廃棄物の再生利用等実施率について

一年間、各宴会の食べ残しのデータを収集し、適正な料理の量の把握など、その後のメニュー作成に活用した。また、生ごみと一般ごみの分別し、生ごみの水切りを徹底する事により、食品廃棄物の削減に努め、目標および前年実績を大幅に上回る結果を残す事ができた。

5 . 4 . 総排水量の削減

総排水量の削減は、目標を達成した。調理部門における食材のさらし方・解凍方法の改善が効果を上げたと思われる。更なる削減には、自動止水栓・節水シャワー等の導入が必要と思われる。

5 . 4 . グリーン購入の推進

エコ商品は、エアコン、冷蔵庫、リサイクルトイレットペーパー、文房具の4点である。今後は、ホテル備品、リネン類についての検討が必要と思われる。

6. 環境関連法規等への違反、訴訟等の有無

市より排水の水質に関して、基準値を上回っているとの指摘を受けた。早急に、グリーストラップの毎日のメンテナンスの改善、下水管の洗浄等の対策を講じました。結果、水質を基準値内に改善しました。その他、環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

また、宿泊のお客様から節水シャワーのご提案をいただき、早速採用させていただきました。その他、関連機関等からの指摘、利害関係者からの訴訟や苦情はありません。

7. 地域社会との環境保全協同活動

空き缶のリサイクルに関しては、「NPO法人 空き缶基金」の趣旨(空き缶の募金を小学校の環境学習に役立てる)に賛同し、年間約1.2トンを回収している。また、使用済の割り箸に関しては、「ソロプチミスト北九州西」の活動に協力して、年間約400kgを紙へのリサイクルのために回収しています。

8. まとめ

今後の環境活動に関しては、従業員だけの活動から、ホテルをご利用いただくお客様にも、環境活動へのご理解とご協力をいただき、お客様を巻き込んだ環境経営に取り組むことが重要と思っています。また、北九州市は、環境モデル都市のひとつに選ばれており、北九州市の企業として環境経営をより進化させることが、わが社の社会的責任のひとつと思っています。